

# 鈴木大拙詞碑

所在地 長野県北佐久郡軽井沢町峠町 碓氷峠 見晴台

山  
深 水  
寒  
大 拙

碑陰

近藤友右衛門翁頌徳誌

この見晴台は名古屋市の近藤友右衛門翁の創  
始したものであるこの台地はもと碓氷嶺の一  
帯で奥平と稱し戦国時代には四方展望を利用  
して陣取の陣地となり後は空しく雑木の茂る  
に委せてあつたが偶々大正七年の夏近藤翁の  
眼にとまり爾来幾歲月この附近一帯の土地を  
買求め巨財を投じて修築済美し先づ山嶺を灼  
し水路を通じ風樹を植へ休憩所を設け遠近の  
連峰を白雲と共に指呼の間に望む見晴台を造  
り更に山麓に至る林間を縫うて葛折の散歩道  
を作り溪谷に臨んでは風情豊かな釣橋を架け  
この明媚幽邃の風光を自由に公開して今日東  
洋第一の景觀と誇るに至らしめたかゝる翁は  
物心両面に幾多の偉業を述べて昭和十二年寿  
六十五歳にして世を去つた近藤友右衛門氏深  
く父翁の遺志を重んじ昭和二十二年この見晴  
台を地元軽井沢町に寄贈されたのもまた故翁  
孝知の師父鈴木大拙先生の遺志を重んじ故翁  
始のふもとに大拙先生の遺志を重んじられた  
近藤友右衛門氏に翁の遺志を重んじて造らんとする

昭和四十一年五月

軽井沢町長 佐藤幸朝市郎



# 鈴木大拙詞碑

所在地 長野県北佐久郡軽井沢町峠町(碓氷峠) 見晴台

山  
深 水  
寒  
大 拙

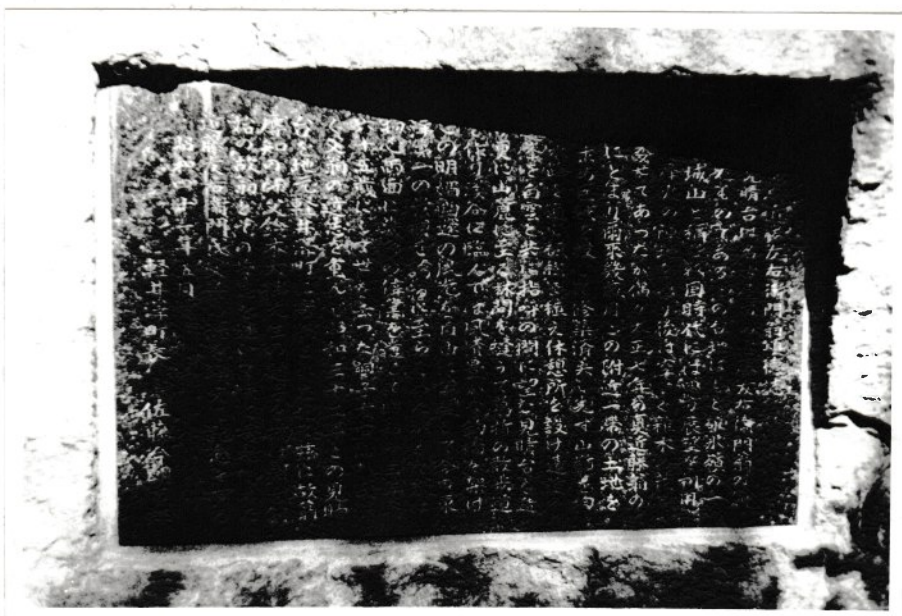
碑陰

## 近藤友右衛門翁頌徳誌

この見晴台は名古屋市の近藤友右衛門翁の創始したものであるこの台地はもと碓氷嶺の一角で城山と称し戦国時代には四方展望を利用して烽火の陣地となり後は空しく雑木の茂るに委せてあったが偶々大正七年の夏近藤翁の眼にとまり爾来幾歳月この附近一帯の土地を買求め巨財を投じて修築済美し先づ山巔を均し水路を通じ楓樹を植え休息所を設け遠近の連峰を白雲と共に指呼の間に望む見晴台を造り更に山麓に至る林間を縫うて葛折の散歩道を作り溪谷に臨んでは風情豊かな釣橋を架けこの明媚幽邃の風光を自由に公開して今日東洋第一の景観と誇るに至らしめたかくて翁は物心両面に幾多の偉業を遺して昭和十三年寿六十五歳にして世を去った嗣子友右衛門氏深く父翁の遺志を重んじ昭和三十二年この見晴台を地元軽井沢町に寄贈された仍て茲に故翁辱知の師父鈴木大拙先生の題字を掲げ開台創始の故翁とその芳志を継いで快く寄贈された近藤友右衛門氏父子の徳を頌えて記念とする

昭和四十一年五月

軽井沢町長 佐藤今朝市郎





追分付近より見た浅間山

中仙道跡代  
のつかりや  
の面影  
↓ (追分)



木下十字架の聖パウロ教会 (田軽井沢)

# 鈴木大拙記念碑

所在地 石川県金沢市広岡町三三十一 六華苑(筋向かい)

## 鈴木大拙先生生誕地

碑陰

文字なし

(注) 説明板によると先生の家は代々加賀藩家老本多氏に仕え良準の四男として 明治二年十月十八日 金沢市下本多町三番丁八番地(現金沢市本多町三丁目八番)に生れ 昭和四十一年七月十二日 鎌倉市松岡文庫を終焉の地とし九十五歳で逝去とある  
尚揮毫は久松真一であり 先生の本名は貞太郎と号すである  
学歴は東大哲学科選科を卒業 そして渡米 法名 也風流庵大拙居士 墓は神奈川県鎌倉市山の内三三七 東慶寺墓地にある



# 鈴木大拙記念碑

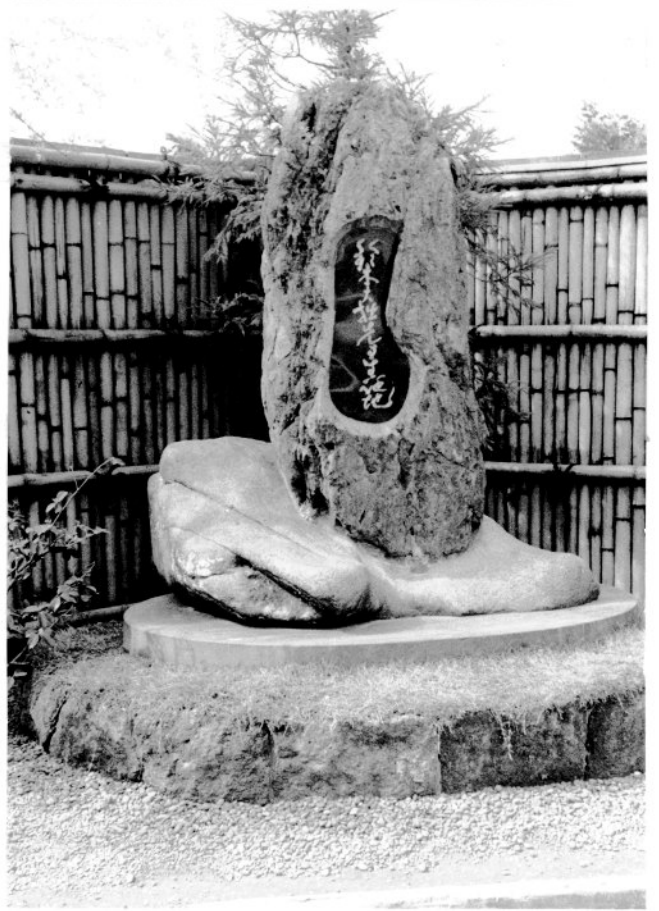
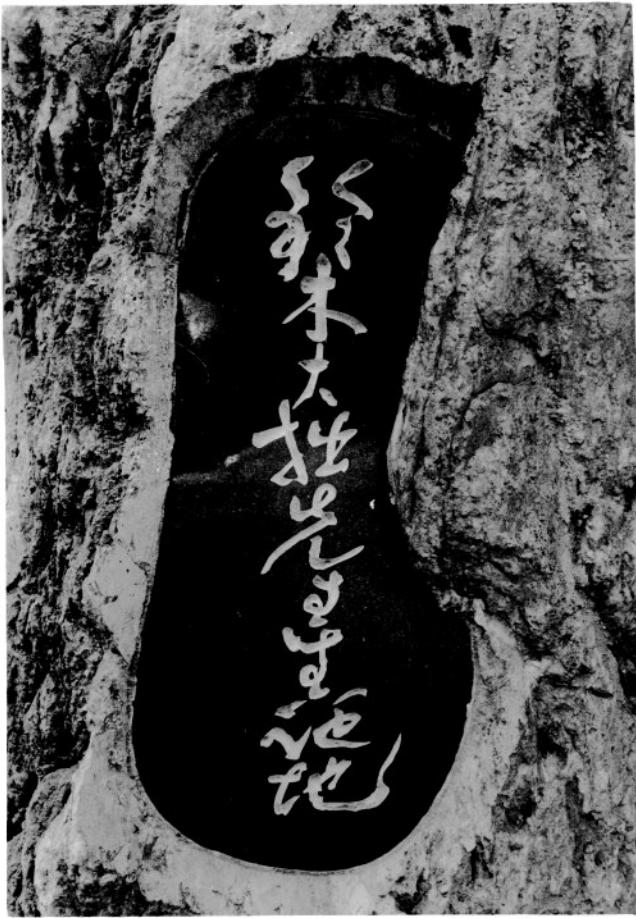
所在地 石川県金沢市広岡町 2-3-10 「六華苑」筋向い

## 鈴木大拙先生生誕地

碑陰

文字なし

(注) 説明板によると 先生の家は代々加賀藩家老本多氏に仕え良準の四男として 明治三年十月十八日 金沢市下本多町参番丁八番地 (現金沢市本多町三丁目八番) に生れ 昭和四十一年七月十二日 鎌倉市松岡文庫を終焉の地とし 九十五歳で逝去とある  
尚揮毫は久松真一であり 先生の本名は貞太郎(ていたろう)である 学歴は東大哲学科選科を卒業 そして渡米 法名 也風流庵大拙居士 墓は神奈川県鎌倉市山ノ内 1367 東慶寺墓地にある



# 鈴木花蓑句碑

所在地 愛知県半田市桐ヶ丘四十三 半田博物館裏 日本庭園内

題立文 詩翁花蓑句碑

花蓑

碑陰

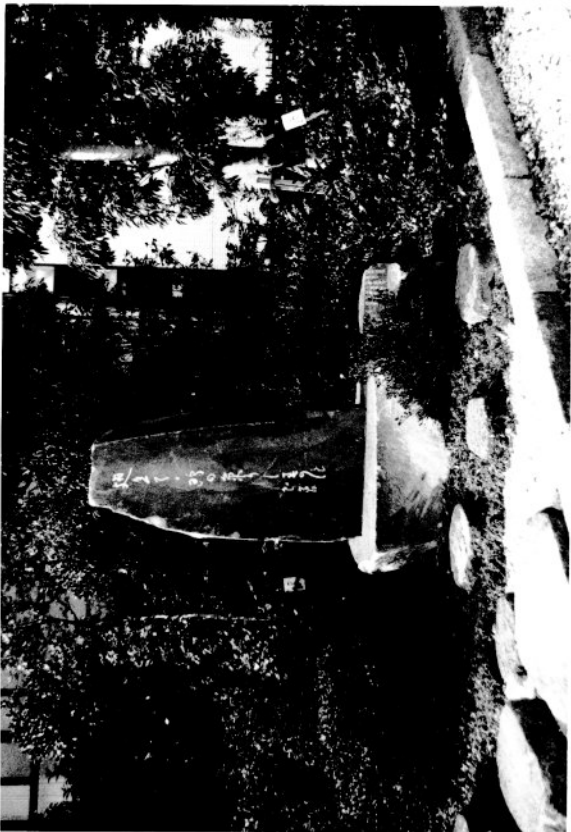
半田市制施行五十周年記念  
昭和六十二年十一月吉日  
半田市文化協會建之

副碑

鈴木花蓑は明治十四年  
半田市に生まれる  
大正時代大審院書記官と  
なり高浜盛子に俳句を  
学び句叢を著し平々之  
の重鎮として一世を風靡し  
昭和十七年碧南市に没す  
はねたて、  
かもめののりし  
はるのなみ  
はるの

命題

鈴木花蓑は明治十四年七月一日、愛知県半田市半田村に生まれる。本業は俳句師。法名は俳師阿彌。没す。



# 鈴木花蓑句碑

所在地 愛知県半田市桐ヶ丘 4-7-3 半田博物館裏 日本庭園内

翹立てゝ鷗の乗りし春の浪

花蓑

碑陰

半田市制施行五十周年記念

昭和六十二年十一月吉日

半田市文化協會建之

副碑

鈴木花蓑は 明治十四年  
半田市に生れる

大正四年大審院書記官と  
なり 高浜虚子に俳句を  
学び研鑽を重ね「ホトトギス」  
の重鎮として一世を風靡し  
昭和十七年碧南市に没す  
はねたてゝ

かもめののりし

はるのなみ

はなみの

略歴

鈴木花蓑 本名 喜一郎 明治14年8月15日 愛知県知多郡半田村に  
生れる 昭和17年11月6日歿す 享年61歳 法名 俳鈴院釋法養



# スズキハキ童謡碑

所在地 宮城県仙台市太白区向山町 県立中央児童館前

オマケから  
ありがとう

スズキハキ  
スズキハキ

スズキハキ

オマケから  
ありがとう

オマケから  
ありがとう

オマケから  
ありがとう

オマケから  
ありがとう

ハキ

碑陰右下

スズキハキ

鈴木栄吉

（一九三三）

終生の父は「丸手」み  
やきかすし「みやきの  
うたを」と自ら原始童子  
になりきり童謡づくりに  
情魂をこめもつつけた日本  
紳士の天啓童謡作家である  
日本人の原性詩情をこれま  
でに詠いあげた作家はない

碑陰左上

「おんさんさんありがとう」の心  
全国に響けて仙台から「童謡専門誌  
「おんさんさん」が発行され、宮城県  
の児童文化運動を拓くこと六十年、  
心ある教育者や児童が「おんさんさん」  
体の実践にまなび、心を育き、心を形成  
し輝く成果をあげた。

「おんさんさん」の心は、仙台市立中央児童館  
発祥の地である。ここに「スズキハキの  
童謡を詠う」の心で、

仙台市立中央児童館 児童委員会

碑陰

スズキハキ（本名鈴木栄吉）明治  
三十二年（一九一九年）仙台市に生まれる  
東北大学で物理学を専攻し、毎日三日教員  
として就業



# スズキヘキ童謡碑

所在地 宮城県仙台市太白区向山3丁目 県立中央児童館前

オテントサン  
アリガトウ

スズメ ト スズメ  
スズメ ト スズメ ト  
ウタッテル

チョウチョ ト チョウチョ  
チョウチョ ト チョウチョト  
オドッテル

コドモ ト コドモ  
コドモ ト コドモ ト  
テオトッテ

キレイナ オハナノ  
マンナカデ

オテントサン  
アリガトウ

ヘキ

碑陰右下

スズキ ヘキ  
本名 鈴木 栄吉  
一八九九—一九七三

終生仙台をはなれず「みやぎの子どもにはみやぎのうたを」と自らが原始童子になりきって童謡づくりに精魂をもやしつづけた日本稀有の天稟童謡作家である日本人の原性詩情をこれまでに謡いあげた作家はない

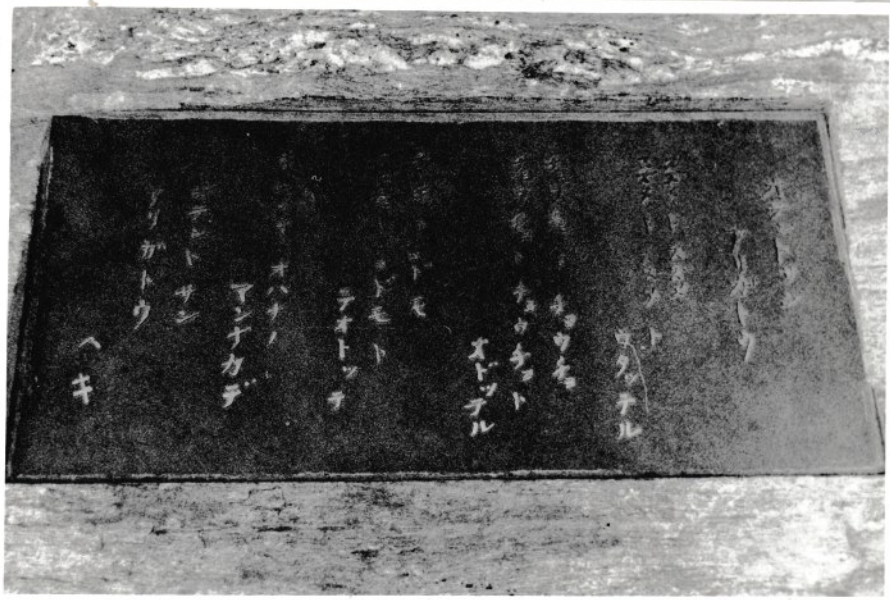
碑陰左上

「おてんとさんありがとう」の心  
全国に魁けて仙台から 童謡専門誌「おてんとさん」が発刊され 宮城県に児童文化運動が興ってから六十年、心ある教育者と在野の愛好家が渾然一体の実践によって継承への基盤を形成し輝く成果をあげてきた。

茲に新しい「おてんとさんの会」発足十周年を迎え 同志スズキヘキの童謡碑を建立し 記念とする

昭和五十五年五月五日

おてんとさんの会 建碑委員会



# スズキハキ童謡碑

所在地 青森県津軽市大湊区大湊町大字妻 大友清彦氏老庭内

オーイトヨクダ

トモタチ

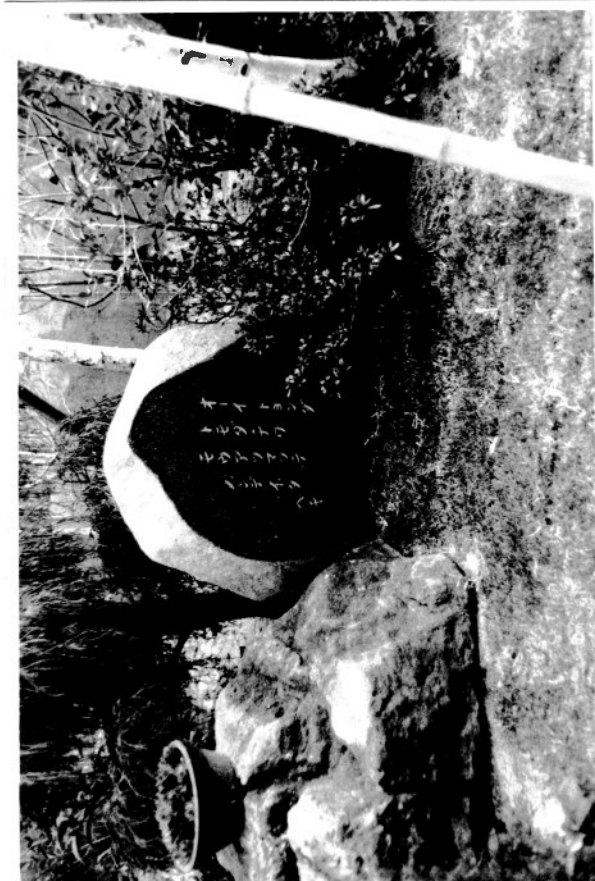
モカアハハタチ

ハハタチ

ハキ

碑除

文筆よし



# スズキヘキ童謡碑

所在地 宮城県仙台市太白区桜木町 19-17 大友靖彦氏宅庭内

オーイ トヨンダ

トモダチハ

モウアツマッテ

ノンデイタ

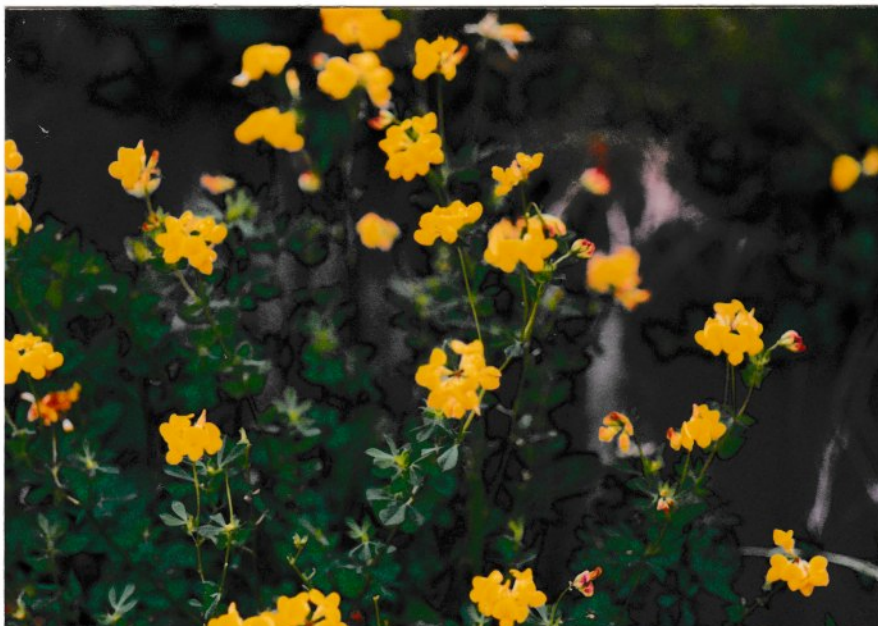
ヘキ

碑陰

文字なし

## 略歴

スズキヘキ 本名 鈴木栄吉 明治 32 年 7 月 3 日 仙台市に生れる 高小卒業  
昭和 48 年 7 月 23 日歿す 享年 74 歳



# 鈴木芳如・高木蒼梧句碑

所在地 神奈川県足柄下郡箱根町湯本四〇五 景雲寺 正眼寺境内 曾我堂

喜寿

蒼梧山人

曾我堂

時鳥

湯坂

かけて

より

山に来て住むこそ

傘寿

芳如

紅葉の賀

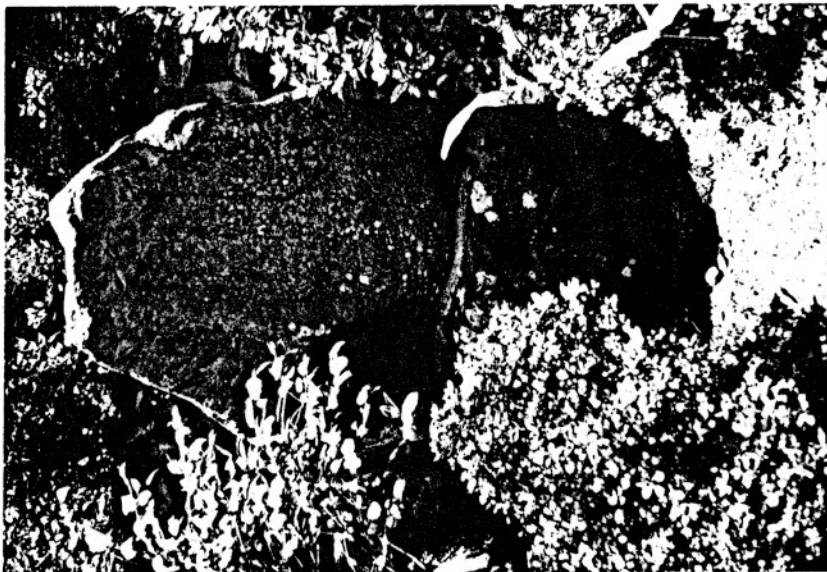
よけれ

碑陰

大磯鳴立庵主芳如刀自は俳誌こ  
よろぎを刊行して俳句に俳諧に  
多くの後進を誘掖し蒼梧翁は古  
俳諧研究家として著言述作に尽  
力しこよろぎに寄稿少なからず  
今年刀自の傘寿翁の喜寿に際会  
し双寿碑を建て以てその華勲を  
無窮に伝へ石と共に二者の寿人  
事を希ふ

昭和甲辰初冬 双寿句碑建立 魏天

(注) 昭和甲辰 三十九



# 鈴木芳如・高木蒼梧句碑

所在地 神奈川県足柄下郡箱根町湯本 405 早雲寺近く 正眼寺境内 曾我堂横

喜寿

蒼梧山人

曾我堂

時鳥

湯坂

かけて

より

山に来て住むこそ

傘寿 芳如

紅葉の賀

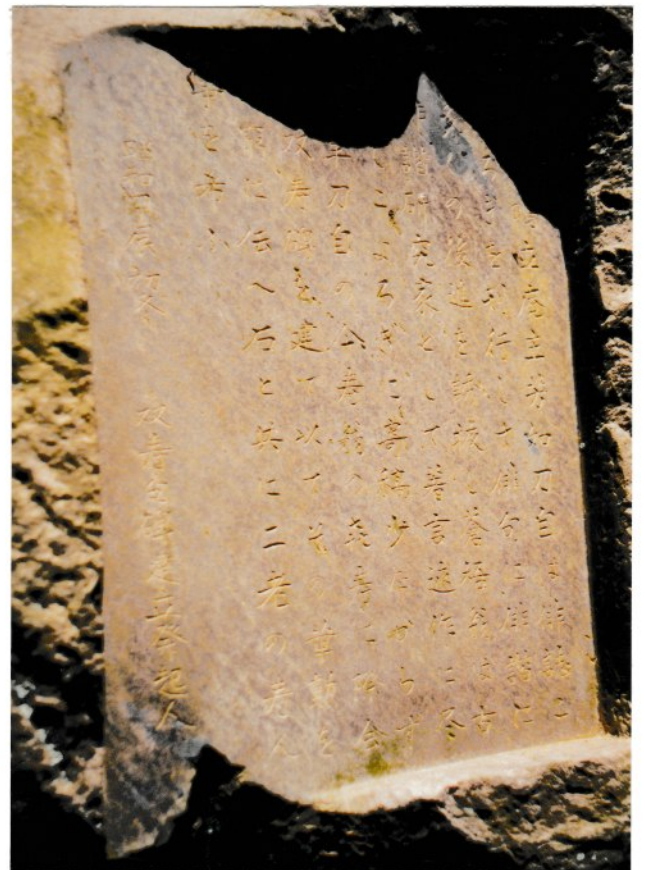
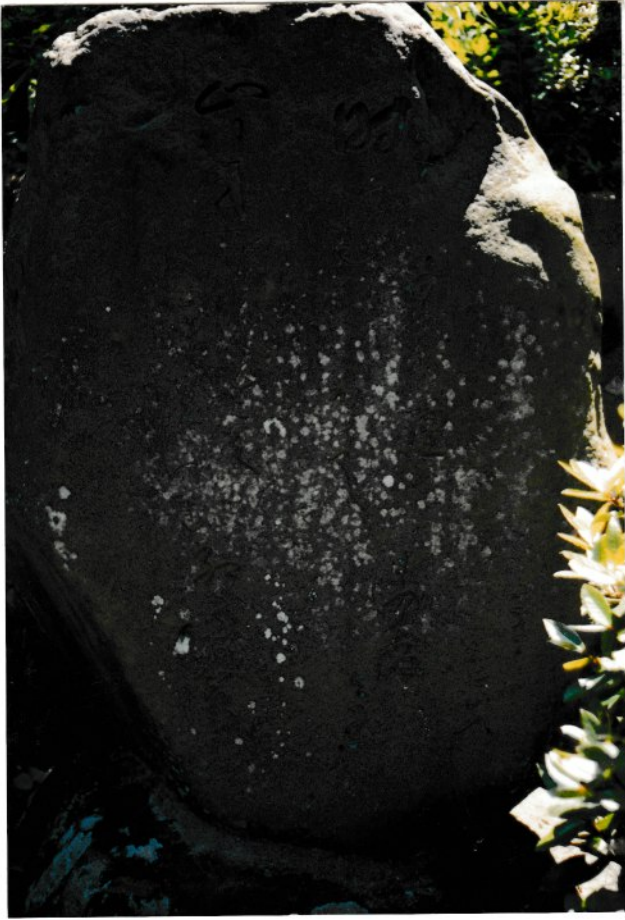
よけれ

碑陰

大磯嶋立庵主芳如刀自は俳誌こ  
よろぎを刊行して俳句に俳諧に  
多くの後進を誘掖し蒼梧翁は古  
俳諧研究家として著言述作に尽  
力しこよろぎに寄稿少なからず  
今年刀自の傘寿翁の喜寿に際会  
し双寿碑を建て以てその華勲を  
無窮に伝へ石と共に二者の寿ん  
事を希ふ

昭和甲辰初冬 双寿句碑建立発起人

(注) 昭和甲辰=39年



# 鈴木芳如句碑

所在地 神奈川県中郡大磯町 鴨立庵庭内

春の海

さら

波して

遠からず

十八世芳如

碑陰  
不明

略歴

鈴木芳如 本名 よ志 旧姓 俵 明治十七年六月十六日 東京麹町に生まれる 昭和四十七年十二月十五日 歿す 享年八十八歳



# 鈴木芳如句碑

所在地 神奈川県中郡大磯町 鳴立庵庭内

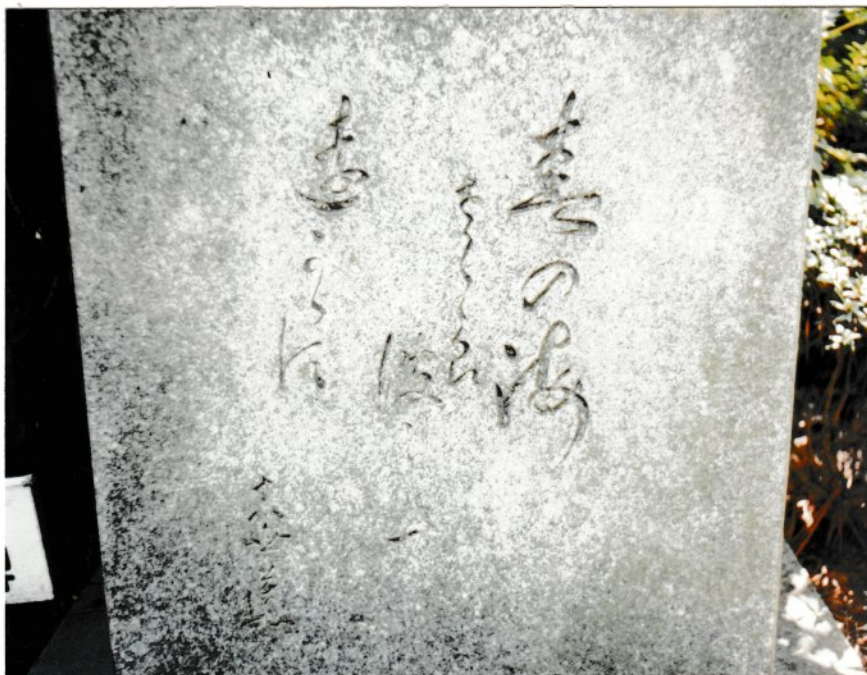
春の海  
さら  
波して  
遠からず  
十八世芳如

碑陰

不明

## 略歴

鈴木芳如 本名 よ志 旧姓 俵 明治十七年六月十六日 東京麴町に生れる  
昭和四十七年十一月十五日歿す 享年八十八歳



# 鈴木真砂女句碑

新公館 千葉県鴨川市広場公園 「鴨川多摩を流す」 プールサイド

知 風 堂

ものくさば

ありぬ

國に 住む

真砂女

傳 陸

真砂女本名鈴木まさ一九〇六年  
房州鴨川吉田屋旅館三女として  
此地に生る

久保田万太郎と事し俳句を住む  
一九五五年句集本賞を授け  
吉田屋旅館女将を経て現在東京  
銀座料亭卯花の女将たり

門弟一同建之

一九五九年盛夏



# 鈴木真砂女句碑

所在地 千葉県鴨川市広場 820 「鴨川グランドホテル」プールサイド

初 風 や

も の と こ ほ

ら ぬ

國 に 住 み

真 砂 女

碑陰

真砂女本名鈴木まさ一九〇六年  
房州鴨川吉田屋旅館三女として  
此地に生る

久保田万太郎に師事し俳句を佳くし  
一九五五年句集生簀篋を上梓す  
吉田屋旅館女将を経て現在東京  
銀座割烹卯花の女将たり

門 弟 一 同 建 之

一九五九年盛夏



真砂女木口鈴大造一九〇六年  
 房州鴨川吉田屋旅館三女として  
 此地に生る  
 久保田方太郎、師事、非可佳くし  
 一九五五年向集三子等と上相す  
 吉田屋旅館女  
 銀座別荘、所没の女持  
 一九五九年盛夏

初風や  
 玉に信入  
 上相

# 鈴木三重吉文学碑

所在地 広島県広島市中央区 相生橋際

伊藤 嘉三 君  
の  
像

私は水久に夢を掛つ

たゞ年少時のごとく

なほに悩むも羨ましく

二二番五七口

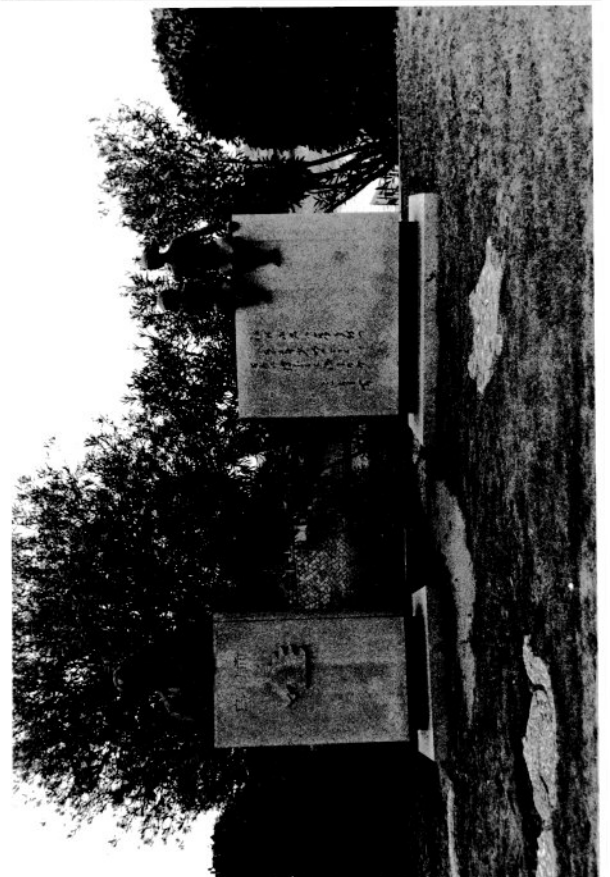
## 白石の裏面

「鳥の森」の鳥などの名作によりて明治  
大正期の又壇に生彩を放つた鈴木  
三重吉は明治十五年この地に生まれた  
大正七年少年少女のために雑誌赤い鳥  
を創刊主宰し童話童謡ついでに鳥の森  
鳥田画の開發と振興に後半生を費した  
わが国児童の父とよまれた  
その文績を記念したのが  
この碑である

昭和十九年六月二十七日

建碑 斎 藤 定市  
加計 慎太郎

鈴木三重吉 赤い鳥の碑  
の  
像



# 鈴木三重吉文学碑

所在地 広島県中区大手町1丁目 相生橋際

児童二人の  
ブロンズ像

台石

私は永久に夢を持つ

たゞ年少時のごとく

ために悩むこと浅きのみ

三重吉

台石の裏面

千鳥 桑の実 などの名作によって明治  
大正期の文壇に生彩を放った鈴木  
三重吉は明治十五年この地に生まれた  
大正七年少年少女のために雑誌赤い鳥  
を創刊主宰し童話童謡つづり方  
自由画の開発と振興に後藩政をささげ  
わが国児童の父とよばれた

その文績を記念したのが  
この碑である

昭和三十九年六月二十七日

建碑寄贈 藤田 定市  
加計慎太郎

鈴木三重吉 赤

の い 馬の首のレリーフ

胸 像 鳥

裏面 昭和三十九年五月

圓鋸勝三作